


六義園案内ポイント

●NO	概要
●1	六義園説明板前
	<ul style="list-style-type: none"> 元禄15年（1702年）築園された和歌の趣味を基調の「回遊式築山泉水」の大庭園。
	<ul style="list-style-type: none"> 五代将軍徳川綱吉の御側用人の柳沢吉保ご造った。
	<ul style="list-style-type: none"> 池を巡ると和歌で詠ま聖地や中国の古典の景観が楽しめる。
	<ul style="list-style-type: none"> 八十八境造られたが現存は32か所。
	六義園の名前の由来
	<ul style="list-style-type: none"> 中国の詩の分類法<六義（種類）>に倣った紀貫之の古今和歌集の序に由来する。
	<ul style="list-style-type: none"> 柳沢吉保は日本風に「むくさのその」と呼んでいた。現在は漢音読みで、<りくぎ>と読むようになった。
	六義園の明治以降
	<ul style="list-style-type: none"> 1878年（明治11年）三菱の岩崎弥太郎の所有になり屋敷が建てられた。
<ul style="list-style-type: none"> 1938年（昭和13年）三代目、岩崎久彌から東京市に寄附された。 	
<ul style="list-style-type: none"> 1953年（昭和28年）国の特別名勝に指定される。 	
●2	通路の掲示板の地図を見ながら
	<p>築庭当時江戸城から見て真北に小石川御殿（将軍に成る前の住まい）その北に</p> <ul style="list-style-type: none"> 六義園。綱吉を守る毘沙門天として位置付けられていた。北東は鬼門寛永寺（綱吉の菩提寺）西には母桂昌院発願の護国寺。

●3	内定大門と寄附した記念の石碑（手前角）	
	<ul style="list-style-type: none"> 1938年（昭和13年）三代目岩崎久彌によって東京市（都）に寄付された記念碑。 内定大門は岩崎家所有時建てられた、現在の建物はは東京都が再建したもの。 	
●4	しだれ桜❀と新修六義園碑（❀の左側）	
	<ul style="list-style-type: none"> 桜の種類は<エドヒガン>花の色は薄紅色、樹齢≒70年、高さ15m、横幅20m、昭和30年代東京都が植えた。 ここに御殿と言われた岩崎家の屋敷が建っていた。 桜の満開時期は一日3万人は訪れる。ライトアップもされます。 	
	新修六義園碑	
	<ul style="list-style-type: none"> 柳沢吉保に霊元上皇から和歌を送られた庭園もあれため四代保光が約1年をかけて修復時の碑 	
●5	六義園館跡（柳沢の館）湊に向かう途中	
	<ul style="list-style-type: none"> 「六義園館跡」の立て札と近くに平らな大きな石のあるあたりに館が建てられていた。 六義館<むくぎのたち>と読む 	
●6	出汐湊、和歌の浦（この庭園の主景観位置を変えると表情が変わる。）	
	<ul style="list-style-type: none"> 中の島を中心に古の和歌の浦をあらわす 724年聖武天皇が和歌の浦を行幸された時山辺赤人が和歌を詠んだのは有名 正面の中の島左側の山が妹山右の少し大きい方が脊山、夫婦や兄弟のことを「妹背」と言うが夫婦和合や子孫繁栄の思いを表す 中央の大きな（紀州）青石は玉笹石と呼ばれ男女のなかを隔てる笹に見立てられている 	
	<ul style="list-style-type: none"> パンフレット参照 	玉藻石の位置から写真を撮ると島が池に移っているかも？
		詠和歌石・・烏帽子の形の石、山辺赤人が歌を詠む姿など。
●7	蓬莱島と臥龍石	
	<ul style="list-style-type: none"> アーチ形の蓬莱島は不老不死になった仙人が住む島 臥龍石は龍が水面に顔を出すところ。（平らな石） 	

	滝見茶屋と紀川（茶屋から池を見る）	
●8	<ul style="list-style-type: none"> 滝見茶屋は岩崎家が建てた。現在の建物は東京都が再建した。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 紀川の源流の源流を表す、六義園で唯一水音が聞こえるところ（滝が出ていれば、） 	
	<ul style="list-style-type: none"> 水分石や枕流洞などの石組みがみられる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 水分石は滝口の石組みで水を左右に分け、その変化によって美しく見せる石のこと。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 川を渡ると説明の立て看板があります。 	
飛石を利用して向こう岸に渡ります。無理な人は引き返して千鳥橋を歩いてください。		
トイレタイム 		
	吹上松・吹上濱	
●9	<ul style="list-style-type: none"> 和歌山の吹上にちなんで造られた（写真スポット） 	
	<ul style="list-style-type: none"> この老木のみ絵図面と同じいちにあるので大切にされてきた。 	
	吹上茶屋	
●10	<ul style="list-style-type: none"> 熱海ノ茶屋として岩崎家によって建てられたが戦災で焼けたのち東京都により再建された。現在は店舗として利用中。 	
ここから池（泉水）を離れて山道へと進みます		
	つつじ茶屋・坐禅石	
●11	<ul style="list-style-type: none"> 岩崎家が造った茶屋。梁と柱はつつじの木、うち三本の柱はサルスペリの木。古くなったので栗の控え柱で補強しています。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 鳥羽青石の坐禅石は傍らにあります。 	
	山蔭橋とぜん溪流	
●12	<ul style="list-style-type: none"> 川の流れと橋の風景。作庭当時は藤の里、秋期はモミジの名所です。 	
	ささがにの道	
●13	<ul style="list-style-type: none"> 蜘蛛（ささがに）の糸のように細い道 	
泉水の広場（紀川）派まで「藤代峠」に行く人と「ささがにの道」で行く人に待ち合わせ場所の説明		
	藤代峠	
●14	<ul style="list-style-type: none"> 園内の中の島、紀の川、和歌の浦が見渡せる 	
	<ul style="list-style-type: none"> 山頂からは南は綱吉のいる江戸城、西は綱吉の母桂昌院が建立した護国寺、東は将軍家の菩提寺である寛永寺、富士山や筑波山も見えたそうです。 	

	紀川
●15	<p>奈良県川上村を源流とする吉野川が和歌山県に入ると紀の川と呼ばれる。前に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見えるのは紀川に見立てている、この泉水（流れ）が和歌の浦に流れるさまを再現している。
	渡月橋（橋は真っすぐではないので注意。）
●16	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜が更けるにつれて動いてゆく月の姿が表現されている。 ・ 橋は御影石でできている
	アジサイ（名古山あたりにたくさんさいている）
●17	<ul style="list-style-type: none"> ・ アジサイは日本の山奥に自生していた。 ・ 江戸時代シーボルトがヨーロッパに持ち帰り品種改良したものがセイヨウアジサイとして日本に逆輸入された。 ・ 六義園では日本在来種のヤマアジサイ。ガクアジサイを中心に15種1000株があります。
●18	<p>出汐湊、和歌の浦（この庭園の主景観位置を変えると表情が変わる。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 泉水をぐるりとめぐりました。お疲れさまでした